

# 旧取手宿本陣 染野家住宅

～水戸徳川家とのつながり～

問 埋蔵文化財センター ☎ 73-2010

江戸時代、水戸街道の宿場の一つであった取手宿には本陣が置かれました。水戸藩第9代藩主の徳川斉昭や江戸幕府最後の将軍徳川慶喜は旧取手宿本陣染野家住宅を利用していました。

今回の特集では、建物や歌碑、染野家に伝わる水戸藩主直筆の掛け軸などから、水戸徳川家とのつながりを紹介します。



## 旧取手宿本陣染野家住宅とは

染野家が水戸徳川家から本陣に指定されたのは、貞享4（1687）年のこととされています。市では昭和62（1987）年1月に、敷地を史跡に指定しています。

現在の旧取手宿本陣染野家住宅の主屋は寛政7（1795）年に建築されました。また、平成8年1月には、主屋と土蔵が茨城県指定有形文化財に指定されています。水戸街道の本陣で唯一、一般公開している貴重な文化財です。



旧取手宿本陣染野家住宅  
紹介ページ

## ◆本陣と取手宿

江戸時代、参勤交代の制度により大名は江戸と領地の間を往復しましたが、その道中で宿泊や休憩に利用した施設を本陣といいます。本陣は、その宿場の有力者の家が指定されました。

17世紀の後半には、千住と水戸を結ぶ水戸街道の宿場として取手宿が整備されていったと考えられます。



明治30年代から大正期の取手町。江戸時代の宿場の面影が残っています

## 主屋の概要

大名・武士が利用する部分（取手の場合は西側）は、武家の住宅の造りである書院造となっています。染野家が住まいとして利用する部分（同じく東側）は農家の造りとなっていて厳格に分けられています。

### ▶式台玄関

本陣正面の板敷の部分の式台といいます。駕籠に乗ってきた大名など身分の高い武士は、式台に駕籠を横付けして地面に降りることなく建物に入りました。式台玄関の上の屋根は、堂々とした入母屋破風となっていて、本陣の格式と風格を保っています。

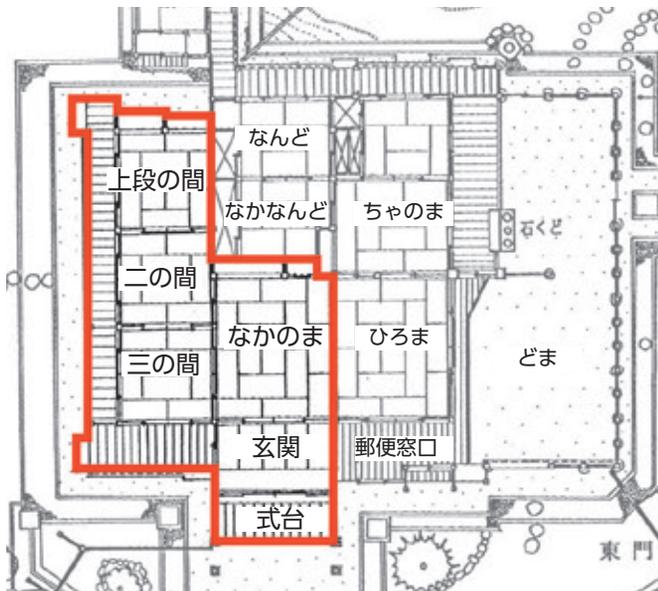


### ▶上段の間

主屋西側には8畳間が南北に3部屋つながっています。右の写真の手前側から三の間・二の間で一番奥が上段の間です。上段の間は床が約20cm高くなっていて、この部屋を利用する人物の身分が高いことを表しています。



### ▶主屋の平面図



太い線で囲った範囲が本陣として使用されていました

### ▶特集を動画で公開

旧取手宿本陣染野家住宅主屋内部の様子などを動画で紹介しています。



旧取手宿本陣染野家住宅を見学して  
荒川弘憲さん・奥野智萌さん  
(東京芸術大学取手校地の学生)

建物の造りが素晴らしい木造建築で、きれいに保存されていて驚きです。取手が宿場町であったころの面影が残っていると思います。上段の間は優雅な雰囲気があり癒やされました。

### 文化財保護審議会委員に伺いました

近江礼子委員

江戸時代の取手は、水戸道中（水戸街道）と利根川が交差する水陸交通の要所でした。それを今に伝えるのが、旧取手宿本陣染野家住宅です。水戸道中は千住と水戸を結び、取手は千住から数えて6番目の宿場でした。水戸徳川家から本陣に指定されましたが、他藩の大名も利用しました。

取手市の誇りである本陣を、後世の人々にもっと伝えたいです。